

横浜市立中学校長・校長代理様
横浜市立義務教育学校長様
社会科担当者様

横浜市立中学校教育研究会
社会科部会長 濱本 貴康

浜中社だより

○浜中社だより発行にあたって

社会科部会長 濱本 貴康

日頃より浜中社の活動にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。平成 29 年 3 月告示された次期学習指導要領中学校社会科においては、「公民としての資質・能力の基礎」となる「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性」という資質・能力の 3 つに柱を、「主体的・対話的で」かつ「社会的な見方・考え方」を働かせた「深い学び」に基づく「課題解決的な学習」によって達成させることが求められています。特に「深い学び」とは、資質・能力が関係付き、組み合わせさせて「つながり」を持つものだと考えます。今回発行した「浜中社だより」は、これからの授業づくりの一助になればとの思いで浜中社会員の皆様にお届けするものです。浜中社は 2020 年の「関プロ横浜大会」を開催いたします。会員の皆様と力を合わせて、オール横浜で取り組んでいきたいと願っております。

浜中社研究総会（5/9 開港記念会館） 永田佳之先生講演（抜粋）より

持続可能な社会を創造する主体づくりが ESD という国際的な認識と、(ESD については) 日本政府・自治体・市民組織も進めてきたので、その成果と課題についてもお話ししたい。これからの社会科について必要なこと世界的な視野から日々の授業を見直すという副題をいただいたので、世界では今 ESD についてどのような課題が取り上げられているのかをシェアできたらと思っている。

教科書でどう教えていくかということよりも世界的なトレンドを見ていくことが大切かと思っている。

マサチューセッツ工科大学メディアラボ所長のミッチェル・レズニックは出版した本の中で、過去 1000 年で最も偉大な発明は幼稚園であると本に書いている。フレーベルが 19 世紀に幼稚園を作った。それまでの学校はスクール形式で授業がなされていた。フレーベルは自作のおもちゃを作り、安全・安心な園を作って子どもたちを遊ばせた。まったく世俗的な世界とは違う守られた世界を作って遊ばせた。21 世紀の生涯学習を先取りした発明だったと言っている。しかし、幼稚園的な学び、つまりクリエイティブラーニング（創造的な学び）を学校に入ったとたんに止めてしまうということが人類の悲劇だったということである。幼稚園的な学びが学校に入ってからも続いて（クリエイティブラーニングスパイラル）、大学に入ってからも続いて、学生が楽しくて仕方がない。しかも深い。そのような授業ができたはずなのに、それが 6 歳で止まってしまっている。その基礎があれば、一生涯、人間は興味関心・好奇心をもって学び続けられる。このことはユネスコや OECD が言ってきたことである。今起きていることは、幼稚園で大切にされていたケアや保育が教育化され、教育が訓練化されてきて、教育が人材育成化されている世界のトレンドの中にあるということである。レズニックは、世界各国の幼稚園から消えているものは砂場・遊具・遊び場・遊戯室・モノづくりスペース・おもちゃである。そして幼稚園が学校化しているということを指摘している。日本においても「資質・能力」が就学前教育から高等教育まで、すべて要求されている。そういう時代に我々は生きている。グローバル化につながるのだから仕方がないという論もあるが、ただそれだけでよいのかということを考える必要があると思う。このような大きなトレンドを把握したうえで、横浜市ではどういう教育を築いていくか、冷静にしかも先行型で考えていくことが重要な時期に来ている。

大手IT企業が行った「Z世代（18歳以下）が未来を創る」という国際規格の調査の結果によると、「自分のことを創造的だと思うか」という問いについて、「創造的である」と答えた生徒の割合は、ドイツ・オーストラリア・イギリス・アメリカなどでは30%後半から40%後半であるのに対して、日本は8%しかないということである。「自分がクリエイティブだと思っている若者が、近未来社会をつくっていく重要な人材になる」というレスニックに指摘からすれば、日本はその基盤が相当に国際比較だと低いということがわかる。

この調査では先生方にも同様のことを調査した結果、生徒が8%であるのに対して日本の先生は2%ということであった。他国も大人になると下がるが、4分の1以上の大人が「創造的」と答えている。4人に一人はクリエイティブと感じている大人が周りにいるということで、グローバルな国際的なZ世代とは対照的な傾向を示している。

ユネスコは、「知るための教育」(learning to know)・「為すための教育」(learning to do)が肥大化しすぎてしまい、「共生のための教育」(learning live together)や「人間存在を深める教育」(learning to be)が先細ってしまっていると指摘し、危機感を発している。時代の趨勢は、ユネスコが心配しているほうへどんどん進んでいると感じる。そして「批判的思考」「創造的思考」「協働的思考」など、思考スキルが世界の教育政策を席卷している。それは大切だと私も思うが、ただそれだけでなく根っこの部分をないがしろにしたら怖いことになる。

根っこのある人間をどのように育てるかということについて、これからはイノベーションが大切である。創造力が重んじられて自発的な労働力（アクティブラーニングにつながる）によって、評価されるよりも自ら評価する、自己評価の基準を持ち自己肯定感をもって、「競争」よりも「共生」、「幸せになる」ことも大切であるが「幸せである」ということをしっかり押さえていく、「頑張る」ということも大切だが「楽しむ」ということも重視していく、という価値観の変容が求められている。

未来の先生は、先生自身も学び続けてほしい。それに生徒たちは惹かれる。好奇心旺盛な先生、好奇心が一番大切だとレスニックも言っている。教育で一番大切なのは、忍耐・興味関心・好奇心・求道心である。それを持ってさえいれば、自分で学ぶ人間は育つということである。ただ、その基盤は学校がしっかり提供する。しかも初期のガイダンスをしっかりしたうえで、自立したら手放していくようにすることが教師の役割である。初めにものすごい手厚い時間とリソース・お金をかけていくということである。正答のない答えを大切にしている先生、例えば「なぜ」という問い、時には弱さも開示できる先生、成長する先生もよいが、常に右肩上がりではなくてよい。変容する先生というように教師観というものが変わってきている。好奇心・学び続ける・正答のない問いに対してどのように向き合っているのかということを知らせていただければと思っている。

ESDの視点から見ると、これからは「自分自身が変わる」「社会が変わる」、つまり社会を変えたければ、もっと小単位に言えば他者（生徒）を変えたければ、自分が変わる。自己変容と社会変容の相互作用というものが学校で起きる。そういう先生や学校がこれからは魅力的で素敵であるといわれている。これからは変容が起きている学校というのが重視されるのではないかと。皆さんと接している生徒は2100年まで生きる。レスニックやユネスコから世界的に批判があるのは、教育が20世紀型だということ。22世紀を生きる若者に向かって20世紀型の教育をやってはいけないということである。

ではどうしたら良いかということで、最近注目されているのがSDGs（Sustainable Development Goals）である。持続可能な発展を遂げるために17の課題に取り組んでいる。変容を重視する気候変動教育、つまり「価値変容」「行動変容」「ライフスタイルの変容」など、道徳だけでなく行動変容を視野に入れ、無意識でもライフスタイルを変えていくレベルまで変容が定着するかということが、世界では問われている。教室で教えることと、教室を一步外に出たときに子どもたちが見る現実にはギャップがある。その通りに我々はとらえて、我々が変容していくかということが問われている。子どもたちは厳しい現実を目の前にデータをもらいながらも、希望の方に進んでいる。大人たちはデータを伏せるのではなくて、それを目の当たりにして、課題解決に向けて子どもと一緒に共有してあげることが希望への教育、そしてそれが自尊感情へつながるというように思う。

各部会より

研究部

○浜中社第1回研究授業について

日 時：平成30年9月26日（水） 13:25～（13:05より受付開始）

会 場：横浜市立富岡東中学校

授 業 者：高嶺 直己教諭

研究主題：「よりよい社会を実現する力を育む社会科学習」

～社会的な見方・考え方を働かせた深い学びをめざして～

単 元 名：地理的分野 日本の諸地域 九州地方 ～自然環境を中核として～

※6月に予定していた研究授業を9月に行うことにいたしました。2年後に迫った関プロ研究大会の研究テーマに沿った授業を行います。多くの方のご参加をお待ちしています。

研修部

○「横浜みなと巡検」について

今年も5月26日（土）に実施いたしました。当日は天候にも恵まれ、社会科研究会のOBの方を講師として、関内駅周辺を中心として横浜の成り立ちを学ぶ機会となりました。参加者の感想をご紹介します。今回参加できなかった会員の皆様、次回は是非参加していただきたいと思います。

★（小学校教諭）

初めて参加しました。横浜出身ではない私にとって、横浜の歴史を知るよい機会となりました。講師の先生方、研究会の先生方、本当にありがとうございました。

★（小学校教諭）

初めて4年生の担任として、吉田新田の学習をするので、下見を兼ねて参加しました。講師の先生がわかりやすくお話ししてくださり、とても勉強になりました。

★（中学校教諭）

2年生の歴史の授業で、江戸時代・明治時代の学習があるので参加してみました。一つ一つの史跡を間近に講師の先生がお話ししてくれてことはありがたかったです。

★（中学校教諭）

初めて参加し、歴史の授業と関連させながら、講師の先生が案内をしてくださり、参考になりました。

事務局

○平成30年度 浜中社会員名簿について

現在作成中です。夏季休業明けには会員の皆様にお届けできるように準備を進めています。

授業づくり委員会(J委員会)

○第1回 5月30日（水）16:00（1800）～ 共進中学校

題材：『里山資本主義 日本経済は安心の原理で動く』（藻谷浩介 角川 one テーマ21）

○第2回 6月27日（水）16:00（1800）～ 共進中学校

題材：『教育の職業的意義』（本田由紀 ちくま新書）

※2回とも授業づくりのヒントになる内容の濃い協議ができました。皆様の参加をお待ちしております。

関プロ研究大会にむけて

○研究推進委員会の活動

関プロ研究大会に向けては、何と言っても授業づくりの充実です。新学習指導要領の主旨を生かし、生徒にとって「分かる・楽しい・深い学び」の研究を目指しています。浜中社では昨年末に研究推進委員を募集した結果、22名の方に応募いただき、現在は月に1回のペースで研究推進委員会を実施しています。

<第1回> 2月20日(火) 17:00 大綱中

◎今までの浜中社研究活動の成果と課題を振り返る(H17全国大会、H25関プロ大会)

講師：古川正人(旭北中副校長)、田中良樹(西金沢学園副校長)

<第2回> 3月27日(火) 14:00 栗田谷中

◎新学習指導要領のポイントを学ぶ 講師：前田総一郎(指導企画課主任指導主事)

◎H25関プロ大会以後の研究活動の報告、直近の他都市研究大会の報告

報告者：堤拓(高田中教諭)、小嶋貴之(希望が丘中学校長)

<第3回> 5月23日(水) 17:00 大綱中

<第4回> 6月13日(水) 17:00 大綱中

<第5回> 7月11日(水) 17:00 大綱中

委員の担当分野決め、年間予定・授業プランの検討

今後の予定

・原則として毎月第2水曜日の17:00より大綱中で開催

・委員から授業実践の報告・検討(年度内に30本程度の授業実践を収集する予定)

★いまからでもOK! 研究推進委員募集(お問い合わせは西本郷中・山下まで)

掲示板

浜中社 夏の予定(7月~9月)

●夏季研修講座 8月2日(木) 男女共同参画センター(戸塚フォーラム) セミナールーム

<午前の部> 9:00~12:00 歴史講座「中世の三浦氏について」 講師：田村泰治氏
夏季巡検の説明

<午後の部> 13:30~16:00 NIEを活用した授業について

●夏季巡検 8月21日(火) 7:00~19:00(予定) 横須賀市・三浦市方面

*当日は 7:00 横浜ビブレ前集合(7:10 出発)

<今回の見どころ> ・三浦の農業(第五次産業に携わる方の講話)
・横須賀と浦賀(ペリー来航の史跡や浦賀のドックの見学)
・京急と三浦半島(三浦半島の開発にまつわる話を京急に取材)

※今から参加希望される方は、研修部長(共進中・中島教諭)までお問い合わせください!

●授業づくり委員会(J委員会)

<第3回> 7月27日(金) 14:30~ 共進中学校

題材：『入門 公共経済学—社会問題を解決する「新しい知」』(中公新書)

<第4回> 8月29日(水) 16:00(1800)~ 共進中学校

題材：『欲望の資本主義 ルールが変わるとき』(東洋経済新報社)

●浜中社研究授業 9月26日(水) 13:25~ 富岡東中学校 授業者：高嶺直己教諭

研究主題：よりよい社会を実現する力を育む社会科学習

単元名：地理的分野 日本の諸地域 九州地方 ~自然環境を中核として~